

6-8 九州地方とその周辺の最近の地震活動 (1986年11月～1987年4月)

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District
(November, 1986 - April, 1987)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1986年11月から1987年4月までの震央分布を第1図に示す。なお、第3・第4図にはそれぞれ11～1月、2月～4月の震央分布を示す。用いたデータの詳細は福岡管区気象台¹⁾を参照されたい。なお、1月21日～4月3日に枕崎測候所に地震計を設置しNTT回線を利用した臨時テレメータ観測を実施した。この期間、地震の処理・解析にはこのデータも利用してある。おもな地震活動は次のとおり。

- (1) 11月19日に種子島南東沖で群発活動があり、09時から17時までの間に震源を決定できないものも含めて22個の地震が検知された。M:4をこえる地震には09時35分のM:5.4、09時06分のM:5.0、09時08分のM:4.0がある。21～23日にも数個の地震(最大M:3.3)が検知されている。震源計算結果は第1図のようにばらついているが種子島2、鹿児島2の両地震計のP時刻の差は8.0から8.8秒の間に集中していて、一群の地震はごく狭い範囲で発生したと考えられる。
- (2) 11月24日～25日・宮崎市直下に4個の浅発地震が発生した。最大は25日07時26分のM:3.5である。宮崎県の海岸線付近によく発生するのは日向灘から九州下にもぐりこむフィリピン海プレートの内部で発生する40～60kmの深さをもつ地殻下の地震であるが、これらは深さ15km内外の地殻内の地震で、珍しい活動である。
- (3) 1986年1年間に九州、および山口県の気象官署で有感となった地震は49回であった。これは1949年の51回より少なく、1926年以降の最少である。
- (4) 1月13日03時54分・四国はるか沖の地震(M:4.9)は南海トラフの近くに発生したものである。この付近は観測網から遠いため平常の小地震の活動が十分に把握できているとは言えないが、1926年以降、この付近に震源決定されている地震は1984年8月25日のM:3.9、1986年7月24日のM:4.0のみである。今回の地震はこれらの地震よりもさらに東側に位置している。15日17時10分にもほぼ同じ所でM:3.8が発生した。
- (5) 2月19日21時26分・島原半島東岸にM:2.9が発生した。5月3日、および5月13日にもそれぞれM:2.3、3.0がほぼ同じ場所で発生している。島原半島東半分、および、そのすぐ沖合は地震がほとんど発生していない(検知されていない)地域である(第2図)。なお、3月8日21時27分と32分に島原半島東岸沖に2個の地震(M:不明)が震源決定されているが、これらは地震が小さく、震央位置に疑問が多い。
- (6) 3月18日・日向灘の地震(M:6.6)については別項で述べる。
- (7) 3月28日20時04分・種子島の東方約60kmでM:5.1が発生し、これを契機に群発活動

が始まった。活動は31日までにはほぼ終息した。震源が決定できた地震は95回、検知された地震までも含めると227回に達した。最大は28日20時26分のM:5.3である。気象官署で有感となった地震は2回であるが、種子島島内の一部では数10回が現地有感となった。1923年7月23日には今回の群発域とほぼ同じ海域でM:7.1が発生し、中種子村で住家小破27、北種子村でがけ崩れ等の被害が生じている。

(8) 4月6日20時33分・宮崎県えびの市付近にM:2.8が発生した。つづいて12日06時14分、および21日17時21分にもそれぞれM:2.5, 2.2が発生した。えびの市では1968年に『えびの地震』(最大M:6.1)が発生、死者3名等の被害が発生しているが、最近の活動は低調でこの3年間でこの付近に震源決定された地震はこれまで1個しかなかった。

(9) 4月30日10時10分・奄美大島直下の地震(M:5.1; 名瀬の北西, P~Sは3.2秒)により名瀬で震度Vを観測したほか、奄美空港、徳之島空港でそれぞれ震度Ⅲ, I相当となった。名瀬は平生から地震活動度の高い所で、昨年1月からこの地震の前までに18回の近地(S-P ≤ 10秒)有感地震(最大震度Ⅳ)を観測している(第1表)が、地震観測網が十分には整備されておらず、地震活動の詳しい状況は解明されていない。

参 考 文 献

- 1) 福岡管区気象台：九州地方とその周辺の最近の地震活動(1986年2月~4月), 地震予知連絡会会報, 36(1986), 322 - 326.

第1表 1986年1月以降の名瀬の近地(P~S時間が10秒以下)有感地震。

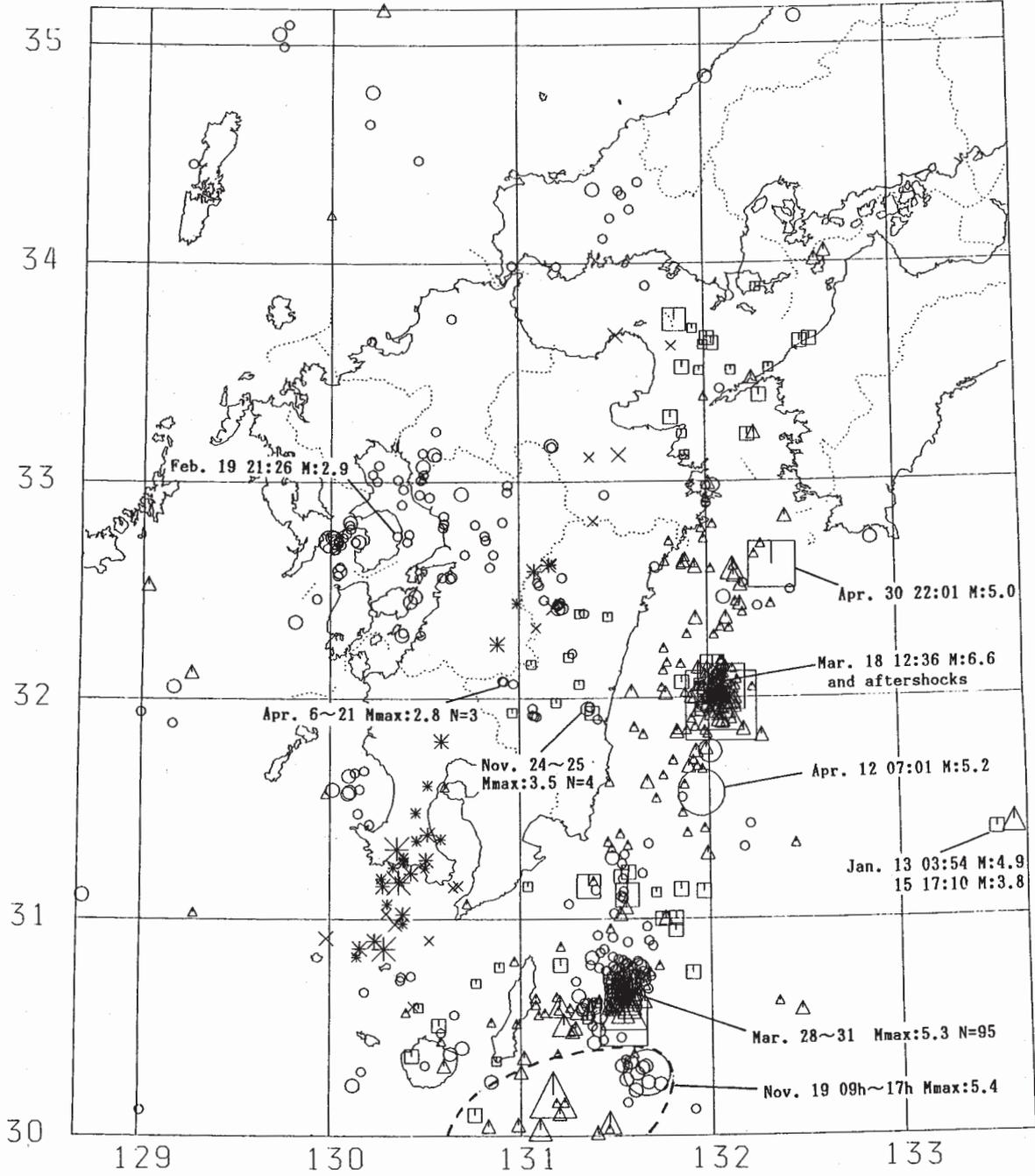
Table 1 Near field (S-P ≤ 10sec.) felt earthquakes at Naze after January, 1986.

※ : Seismic intensity in JMA scale ; † : second

Year	Mon	day	hr:min	※	S-P(†)	Year	Mon	day	hr:min	※	S-P(†)	
1986	3	10	10:23	1	4.2			10	14	10:29	1	6.6
	3	23	12:50	2	8.8			11	14	00:01	2	4.3
	3	24	11:01	4	8.5	1987	1	14	13:54	1	4.1	
	3	24	11:57	1	8.5		2	19	03:41	1	2.6	
	5	31	00:45	1	4.4		2	20	20:43	1	3.1	
	8	22	04:46	1	3.8		2	26	09:12	1	4.7	
	9	8	14:10	1	7.1		4	30	10:10	5	3.2	
	9	15	04:33	2	10.0		4	30	11:16	1	2.5	
	9	22	21:36	1	2.4		4	30	22:51	1	2.5	
	10	1	22:12	1	8.0		5	4	11:41	3	2.4	
	10	2	02:31	1	7.4		5	8	00:23	1	9.7	
	10	3	04:20	1	7.9		5	9	19:26	3	3.3	

1986 11 1 --- 1987 4 30

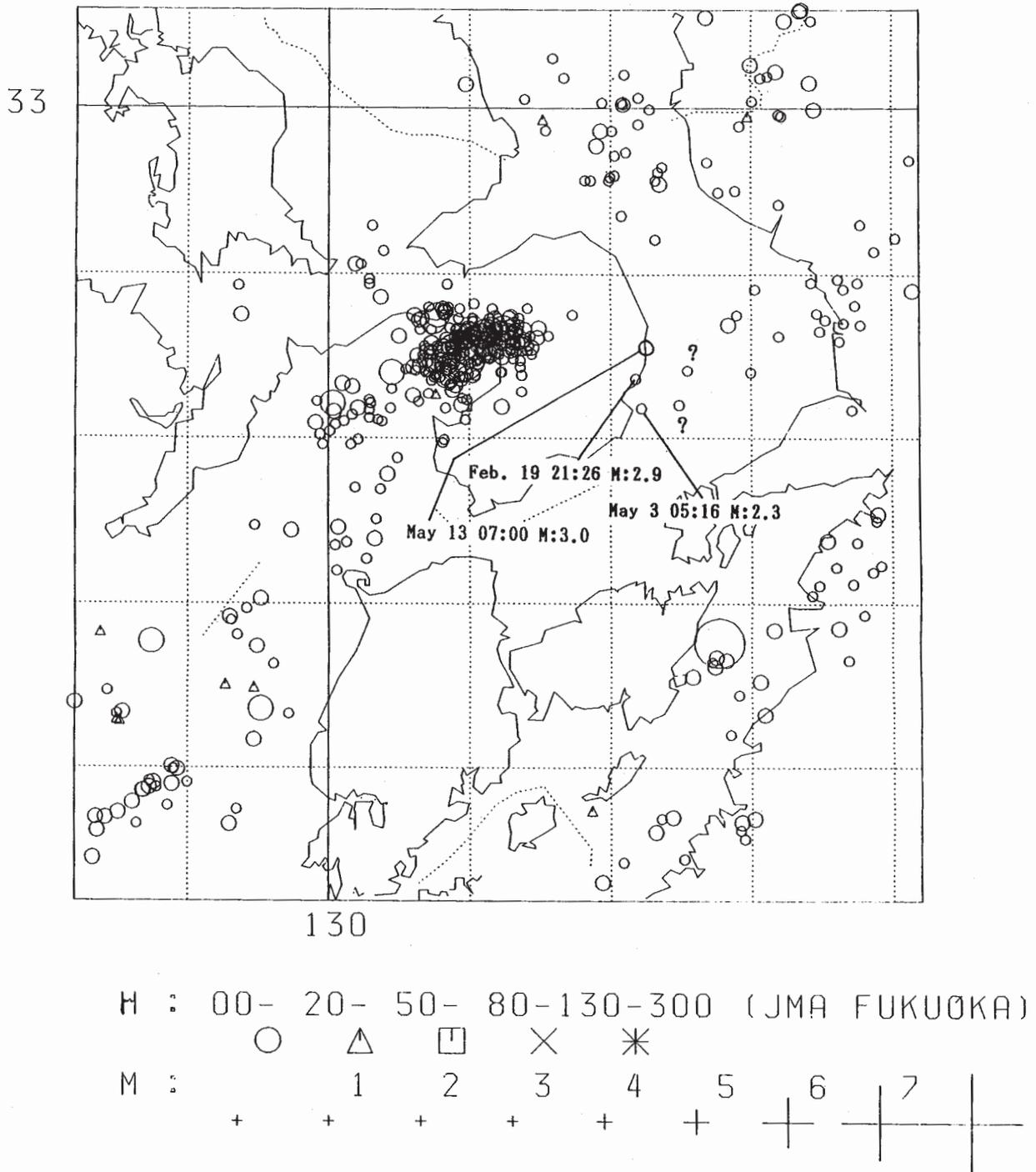
N=702



H : 00- 20- 50- 80-130-300 (JMA FUKUOKA)
 ○ △ □ × ＊
 M : + 1 2 3 4 5 6 7

第1図 震央分布 (1986年11月~1987年4月)。
 Fig. 1 Epicentral distribution (November, 1986 - April, 1987).

1984 3 14 --- 1987 5 13

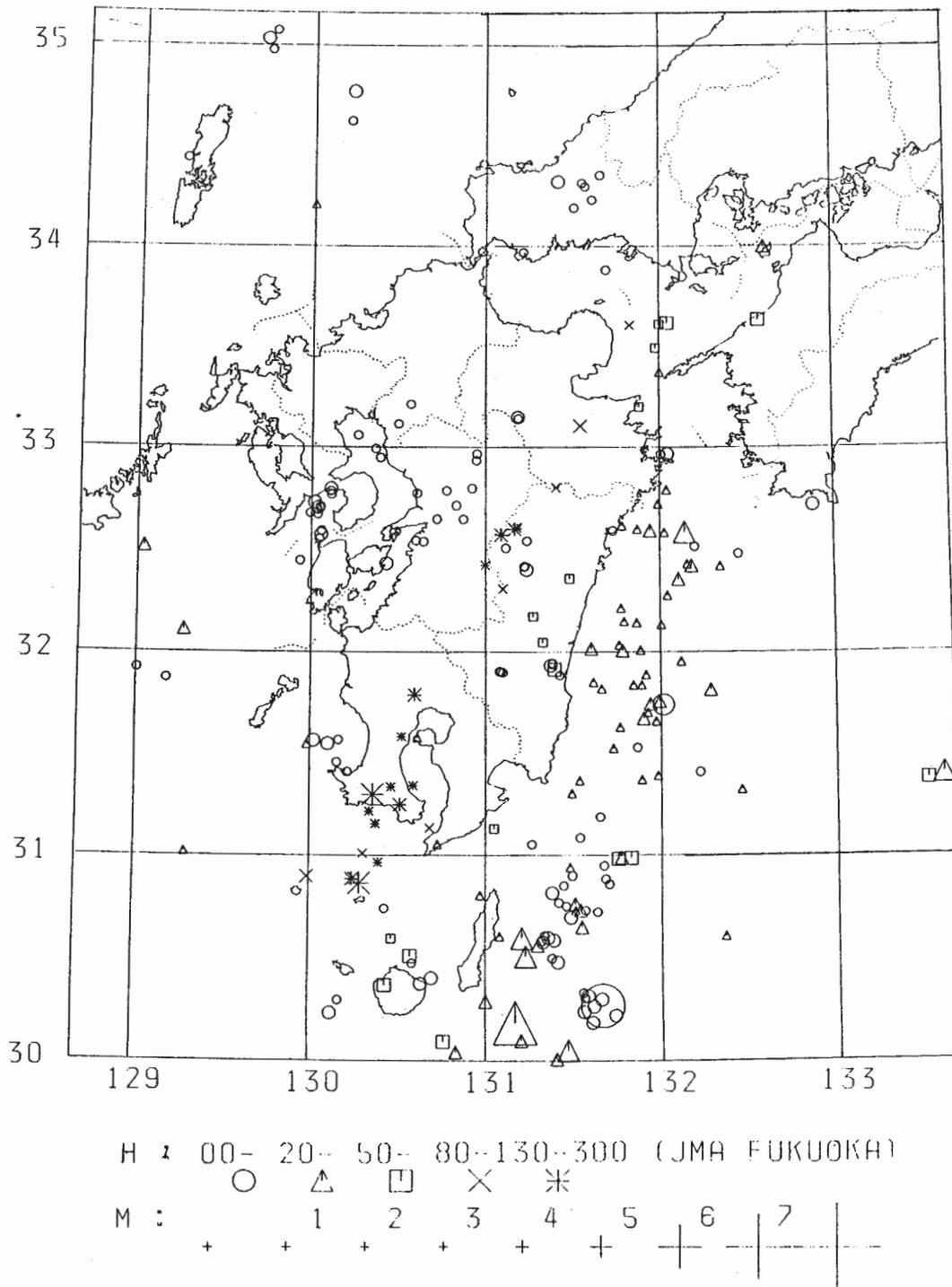


第2図 橘湾周辺の震央分布 (1984年3月14日~1987年5月3日)。

Fig. 2 Epicentral distribution near Tachibanawan region (March 14, 1984 - May 3, 1987).

1986 11 1 --- 1987 1 31

N=217

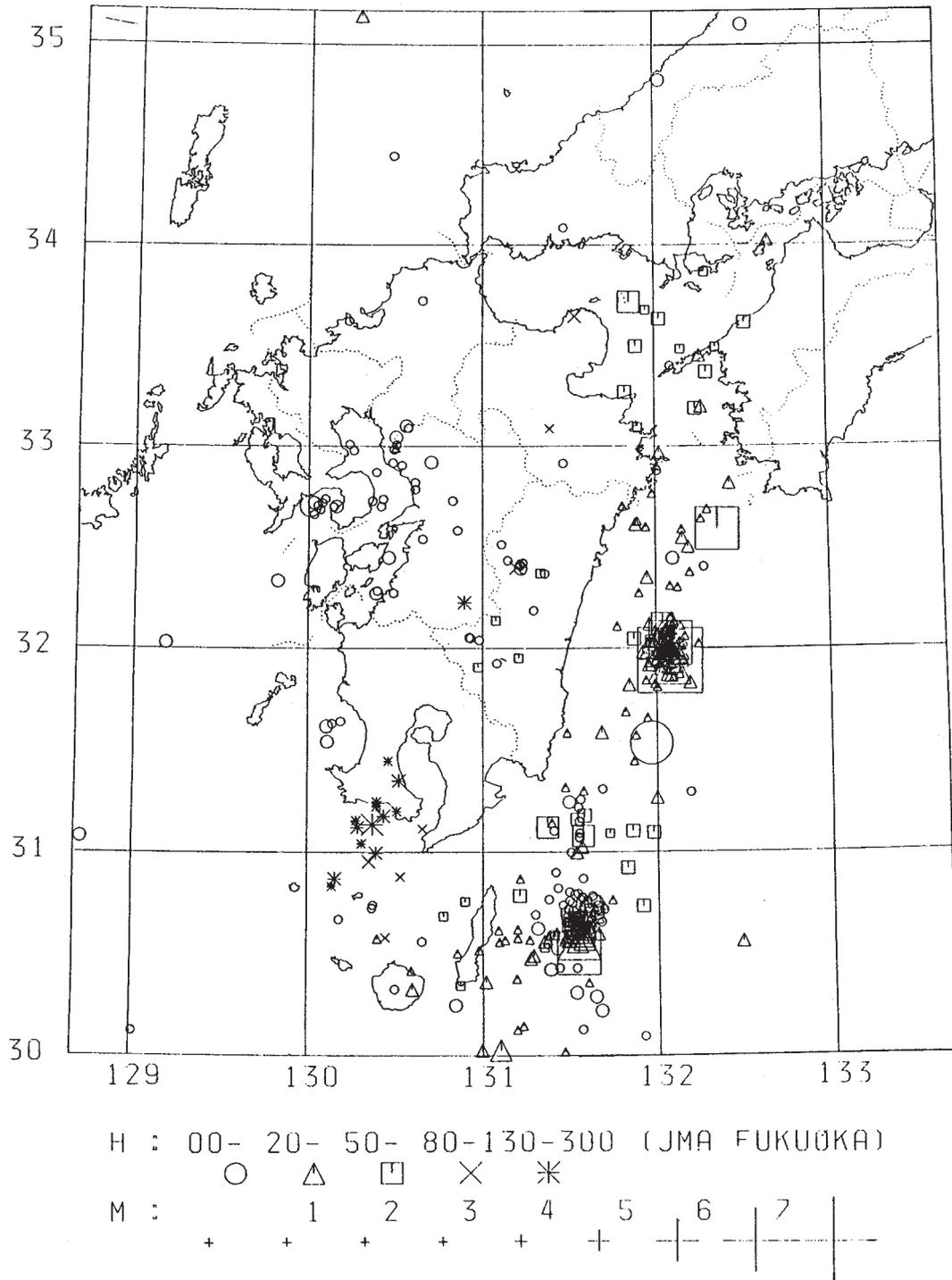


第3図 震央分布 (1986年11月~1987年1月)。

Fig. 3 Epicentral distribution (November, 1986 - January, 1987).

1987 2 1 --- 1987 4 30

N=485



第4図 震央分布 (1987年2月~1987年4月)。

Fig. 4 Epicentral distribution (February, 1987 - April, 1987).